

## V-Campus 6<sup>th</sup> 更新

### － p6.サーバ・ストレージ －

#### 1. 概要

V-Campus 5th では、原則、すべてのサーバを仮想環境上に構築し運用している。V-Campus 6th では、これらをさらに発展させ、低コストかつ柔軟性のある情報基盤とする事を目的に構築した。

また、V-Campus5th で課題となっていた仮想基盤の可視化による管理性の向上、バックアップシステムの安定化を図ることと、仮想基盤を構成する物理サーバの台数を減らし、仮想マシンの集約率を高め、将来的な拡張の余地を残す設計としている。

p6.サーバ・ストレージについては、7社の提案があり内容的・コスト的には各社大差がなかった。その中で運用に信頼感が持てるベンダーを選定した。

#### 2. システム更新のポイント

- (1). 高集積化、データ重複排除技術
- (2). 従来の高信頼性の継続
- (3). インフラストラクチャ全体の見える化（将来のフルクラウド化の準備）
- (4). 柔軟なリソース活用とパフォーマンスの最適化

#### 3. p6.サーバ・ストレージのまとめ

今回の更新で、課題であったバックアップの安定稼働と運用手間削減が改善された。また、vRearize Operations Manager を導入し、仮想化基盤の可視化を行った。

今後は、増え続けるリソースに対してどのような対応を行っていくかを検討し、安定稼働に努めていく。

# V-Campus6th

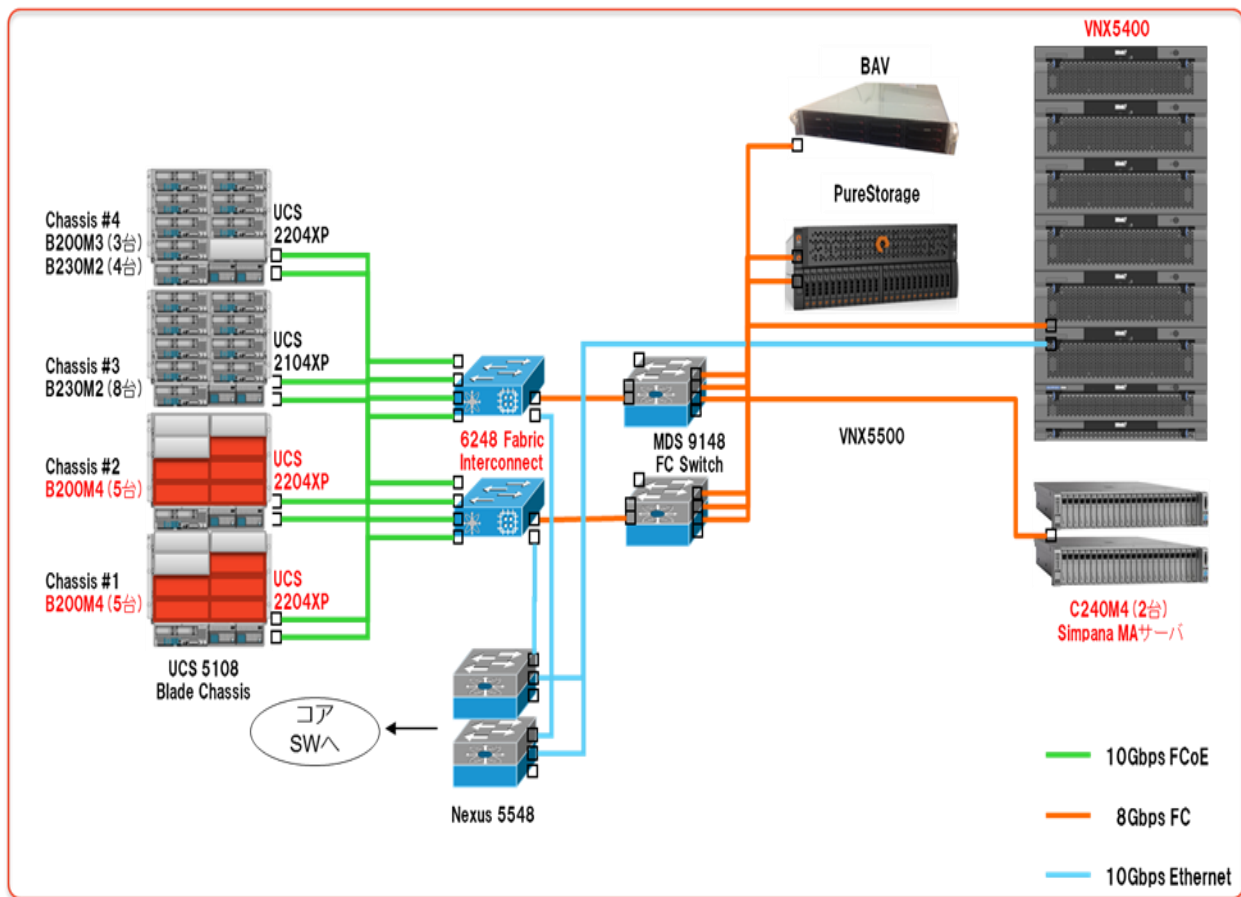


図 1 : サーバ・ストレージ 概要図